

平成30年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

<合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子>

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）
- (2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- (3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- (4) 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）
- (5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実
- (6) ○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびようWGS学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導者として」、継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置付け、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図る。

- ☆つながりを通して学ぶ楽しさと居場所のある学校・子供の成長の視点に立った校務の見直し（分担と精選）

【 学 習 指 導 】

指導方法の工夫や問題解決的な学習等を取り入れた分かる授業を展開することで、学ぶ意欲や態度を育てるとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

☆ 基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

【 児 童 生 徒 指 導 】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・保健指導・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 体力向上、健康安全教育、性教育、食に関する指導等との関連を図りながら、生涯にわたって心身ともに健康な生活を意識していける児童を育成する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。 ④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかり指導する。 ② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。 ③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。（新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり） ④ 欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。 ⑤ 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションをとるようにし、また誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。 ⑥ 組織として機能できるようこれからも校務分掌業務に対して主体的に取り組んでいく。		【達成状況】 【次年度の方針】

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「学習の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、自己評価をする。 ② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定や周知を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを毎週末に行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。 ③ 「五代の子の一日」の提示を工夫し、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与えるとともに、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。 ④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。 ⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間や地域との連携を図る。 ⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ③ 「『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について」の「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。	① 道徳や学級活動、朝や帰りの会を活用し、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】

【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 「いじめゼロアンケート」や教育相談を実施することにより、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間の取組を掲載する。	
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 児童アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行ったりして、児童の成就感存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。	
	③ 「なかよしタイム」の活動を通して、高学年児童がリーダーシップを育む活動として本年度も継続して実施する。	
	④ 就学时健康診断は5年児童が係りを行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることが出来るため、本年度も同様の方法で実施し結果を検証する。	
	⑤ 教職員による各種行事の反省は、主務者を中心に速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。	
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。	
	③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。	

	④ 児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を1年間に1回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。 ⑤ 学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。 ④ 危機管理情報は、宇都宮市が行う学校情報提供システム、メール配信による情報を速やかに伝えられるようにする。 ⑤ 小中一貫教育として、本年度「図書だより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。	
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで、学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指す。 ③ 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。 ④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 安全点検を確実に実施し、校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充などに努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。(年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。) ② 縦割り班清掃を実施し、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】

A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会や陸上大会練習、そば打ち体験等)	【達成状況】 【次年度の方針】
A11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 教職員アンケート「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、効果的な学校スタッフの活用を図る。 ② スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査し、改善する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 教職員アンケート「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 掲示板やメールの活用に関する共通理解を図り、多忙な中でも、効率的かつ確実にコミュニケーションを図ることができる方法を工夫する。 ② 業務の効率化を推進し、コミュニケーションを図るのに必要な時間の確保に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
B1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	【達成状況】 【次年度の方針】

教育活動の状況	生	A13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施（地域学校園と連携しあいさつの日を年6回行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	活		② 下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日を次年度も実施する。	
		A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「学習の約束」「五代の子の一日」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
			② 発達段階に即した生活目標により自覚を促し、週の終わりには振り返りをし、生活に生かすようにする。	
			③ 学校生活の様々な場面において、気持ちのよい言葉づかいについて継続指導をしていく。	
		B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、5月、10月、12月、2月に「いじめゼロ」アンケートによる実態調査を実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
			② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。（5月、10月いじめゼロ強調月間）	
			③ 「おはなし会ぽけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。	
			④ 教育相談月間「おはなしタイム」（年2回）の時間を確保し、充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。	
			⑤ 学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。	
			⑥ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	

		⑦ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。 ⑧ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	
健康・体力	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。 ② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。 ③ 児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント（ドッジボール大会やなわとび大会等）などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている（きれいなものでも1口は食べている。）」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。 ③ 食に関する指導では、箸の持ち方ができない児童が多いため、重点化し、指導に取り組んでいく。 ④ 食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていけるようにする。また、給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。 ⑤ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る	【達成状況】 【次年度の方針】

		⑥ 引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	
	B3 児童は、自分の健康の保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は自分の健康保持や安全を考えて行動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める ③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
学 習	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。 ② 朝の学習・長期休業で漢字・計算練習を充実させ、向上を図る。 ③ ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。 ④ 学習課題や学習形態を工夫し、考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。 ② 授業開始時刻の遵守、学習用具の準備や話を聞く態度、発表の仕方など基本的な学習態度や学習技能の習得を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 児童アンケート「児童（生徒）は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」 ⇒児童の肯定回答 80%以上	① 道徳の授業等において地域でのボランティア活動や行事に参加する意義について、児童に教える。 ② 地域でのボランティア活動や行事の通知をホームページや学校だよりを通じて積極的に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア（「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など）や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 校長、副校長をはじめ担任をもたない教員も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める ⑤ 地域協議会学習支援ボランティア（図書ボランティア）と連携し、図書室の環境整備を行う。 ⑥ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。	① 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。	【達成状況】 【次年度の方針】

色 ・ 課 題 等	【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 各教科の関連を図りながら、児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。 ③ 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。 ④ 会話することの楽しさを体験させ、伝えたいことを相手に分かりやすく話したり、進んで相手の話を聞いたりするなど、自分の気持ちや考えを伝え合う力を育成する。	
	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年:道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 特別の教科道徳では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、道徳の教科書を有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。 ② 読み物資料以外にも、インターネット教材など各種教材を開発し、心に響く授業の展開をする。 ③ 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。 ④ 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施する。 ⑤ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。 ⑥ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

6 学校関係者評価

--

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

--